

## 平成28年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成29年5月

飯田市（都道府県名）

○計画期間：平成26年4月～平成31年3月（5年0月）

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成26年度からスタートした第2期計画は、第1期の「人々の交流によるにぎわいの回復」「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」という二つの目標に加え「地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造」を加えた三つの目標を設定し、これらの目標達成のために様々な事業を展開した。おおむね計画通りに推移している。

新たな取り組みとして、まち中を回遊してもらう事で中心市街地の賑わいを創出し、商業振興を目的とした「飯田丘のまちバル」を8月に開催した。中心市街地46の飲食店が参加し、実行委員会組織で運営する事業は、参加者がチケットを購入し、自由に5店舗を選んで食べ歩き、飲み歩きするイベントで、初の開催にも関わらず、人形劇や音楽セッションなどのコラボを始め、浴衣で楽しむ仕掛けづくりなどで、中心市街地は大変賑わい、参加者は新たなお店を知って頂くとともに、参加店舗も誘客の工夫をすることで中心市街地の更なる魅力向上に役立つ取り組みとなった。参加店舗からは、リピータも増え、新たな顧客の開拓に繋がったと好評であった。

歩行者優先道路活用事業として実施している「ゆるキャラ®天国」や「竹宵祭り」、人形劇のまちづくり推進事業である「飯田丘のまちフェスティバル」など、りんご並木を中心に展開している様々なイベント、事業も徐々に根付いてきており、全体的に来場者は増加傾向にある。また、実行委員会に新たな商栄会やグループの参加もあり、事業の盛り上がりを見せている。

特に、昨年10周年を迎え過去最大の集客を見せた「飯田丘のまちフェスティバル」の目玉事業として取り組んだ「痛車タクシー」は、飯田下伊那タクシー協会の全面協力の元、各社1台を制作し計6台を配車することとなり、その取り組みは専門誌に掲載され、この企画から波及した「痛公用車」は中国のメディア等にも掲載されるなど、飯田の新たなサブカル文化を世界に発信することができた。

平成27年度に開園以来最高の入場者数となった飯田市立動物園は、平成28年度も入場者数を維持し、中心市街地のにぎわいに大きく貢献している。また、平成27年にりんご庁舎内にオープンした飯田こども家庭応援センター「ゆいきっず」は、市街地の新たな親子連れの賑わいに寄与している。

中心市街地に従来からある商店街では、空き家・空き店舗が目立ってきており、その再生対策として平成28年度より「まちなか創業空き店舗活用事業」を実施した。新たに創業しようとする、特に若い世代を対象に、商店街の空き店舗を活用するよう補助金を支給し誘導するこの取り組みは、飯田商工会議所等の創業相談窓口と連携し、8件の相談のうち、3件の空き店舗解消に結びつき、まちの活力の向上に寄与している。

平成27年度、中心市街地活性化協会より意見のあった「橋北地区（仲の町周辺）の歴史的町並みに対する積極的な取り組み」においては、平成28年度より、市内の医療法人が橋北地区に

ある酒造跡地に地域の景観に配慮するサービス付き高齢者住宅の整備を進めるとともに、付属する酒蔵をレストランとして利活用する整備も行っている。また、その施設を地域の健康づくりにも活用できる施設として、行政とのタイアップで平成 29 年度より新たな健康づくり事業へ展開する計画もある。

中心市街地の玄関口である JR 飯田駅周辺に於いては、平成 26 年度に実施した「まちの活性化・都市デザイン競技」の提案について、平成 27 年度に引き続き、主体別の勉強会を行い、外からの視点の提案に対する地元の考え方について協議した。今後は第 3 期中心市街地活性化基本計画の策定に向け、郊外のリニア駅との関係を踏まえた中心市街地の都市デザインを市民と一緒に考えていく。

## 2. 平成 28 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

別添のとおり

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
人々の交流による にぎわいの回復	歩行者・自転車通行量 (土曜日)	7,500 人/日	8,600 人/日	7,898 人/日	①	①
	歩行者・自転車通行量 (平日)	9,300 人/日	10,300 人/日	10,312 人/日	①	①
地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造	文化・交流施設の利用者数(年間)	264,000 人/年	290,000 人/年	296,832 人/年	①	①
環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現	中心市街地における都市福利施設の利用者数(年間)	112,000 人/年	123,000 人/年	122,029 人/年	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、平成 26 年にオープンした「並木横丁いこいこ」の賑わいの継続を始め、飯田市立動物園の来園者の増加や、電気小型バス「プッチー号」の通年運行事業などにより街中を訪れる人が増えている。このような取り組みの中で、平成 28 年度における中心市街地の平日の歩行者類通行量は 10,312 人/日と、目標値である 10,300 人/日に達することができた。今後は、商店街団体を中心とする誘客性や回遊性を高める事業を展開し、目標達成を維持していく。

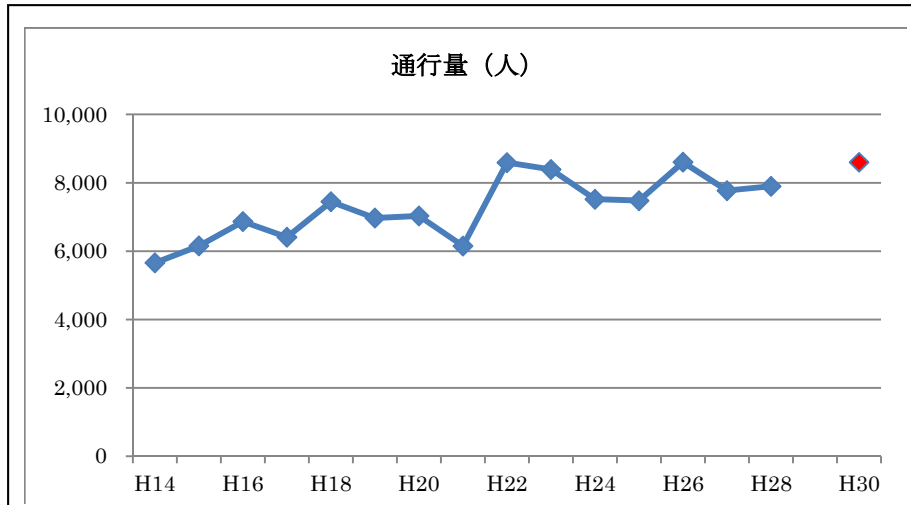
「文化・交流施設の利用者数」については、平成 28 年度の実績値が 296,832 人/年と目標値である 290,000 人/年を既に達成しており、引き続き各事業の実施を確実に展開し、利用者数の増加に努める。今後は、特に入園者数の実績を上げている飯田市立動物園を核に、施設を結ぶ交通手段である電気小型バスの有効活用を図りながら、各施設を繋ぐ事業の検討を行うとともに、施設の利用者をまちなか回遊へも結ぶ仕掛けづくりを検討していく。

「都市福祉施設の利用者数」については、平成 28 年度の実績値が 122,029 人/年と、目標値の 123,000 人/年に向けて順調に進んでいる。特に平成 27 年度にオープンした子育て・子供サロンの拠点施設である「ゆいキッズ」を利用する親子も順調に伸びてきており、親子ずれの賑わいづくりに貢献している。また、飯田市公民館を始めとする公共施設および民間経営施設の利用者数も徐々に増加しており、今後も計画に基づいた事業展開で増加が見込まれる。

### 3. 目標指標毎のフォローアップ結果

#### ●調査結果の推移（人々の交流によるにぎわいの回復）

「歩行者・自転車通行量（土曜日）」※目標設定の考え方基本計画 P98～P101 参照



年	(単位：人／日)
H24	7,500 (基準年値)
H26	8,604
H27	7,772
H28	7,898
H29	
H30	8,600 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

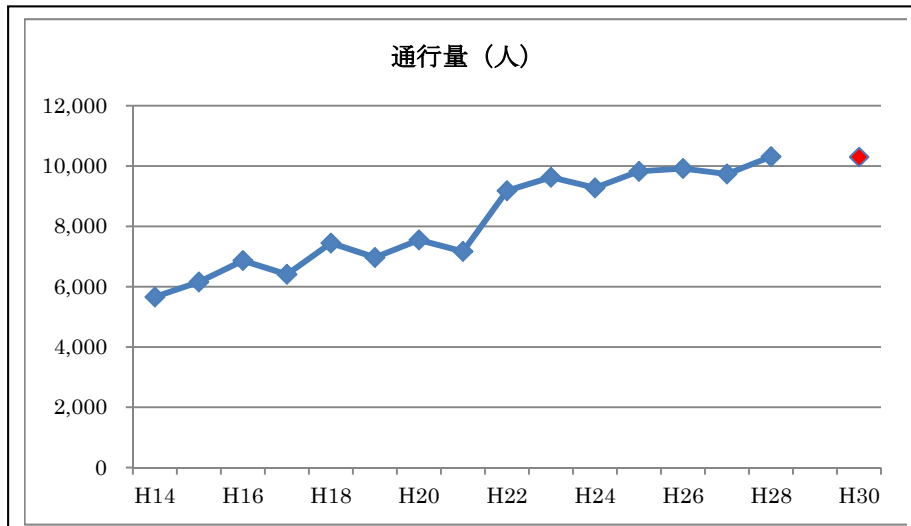
※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P102～P104 参照



年	(単位：人／日)
H24	9,300 (基準年値)
H26	9,916
H27	9,738
H28	10,312
H29	
H30	10,300 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 平日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 飯田駅周辺及び駅前ストリート事業（事業主体名：飯田市、飯田観光協会、JR東海）

事業完了時期	平成 30 年度【整備事業に向けて検討中】
事業概要	交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能、駅周辺及び駅前ストリートの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業。
事業効果及び進捗状況	事業の取り組み効果により、平成 28 年度の駅前における土曜日の歩行者類通行量は 3,500 人/日と目標値である 3,600 人/日に向けて順調に推移しているが、平日の歩行者類通行量は目標値である 4,300 人/日に対して 3,800 人/日であり、日常における中心市街地への来訪者や歩行者はまだまだ少ない状況である。今後は、誘客性や回遊性を高める取り組みに努め、目標達成につなげたい。

### ②. りんご並木周辺商業施設等整備事業（事業主体名：（株）飯田まちづくりカンパニー）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、りんご並木周辺の空き店舗等を中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 26 年 11 月に空き店舗を活用しオープンした「並木横丁いこいこ」の継続した賑わいが牽引し、平成 28 年度の りんご並木における平日（1,800 人/日）、祝日（1,600 人/日）の歩行者類等通行量は、共に目標値の達成に向けて順調に進んでいる。

### ③. まちなかの回遊性を創出する事業

（事業主体名：飯田市、NPO いいだ応援ネットイデア、NPO 飯田人形劇センター）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	飯田駅前にある「駅前案内所」、りんご並木周辺にある「まちなかインフォメーション」を活用し、りんご並木賑わいづくり事業など 5 つの事業によって回遊性創出を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度に実施したイベントには、天候にも恵まれ多くの来場者があった。このような効果から、平成 28 年度の中心市街地における平日の歩行者類通行量は 10,300 人/日と目標値（10,300 人/日）を達成できた。引き続き、維持できるよう努める。

### ④. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：（株）なみき）

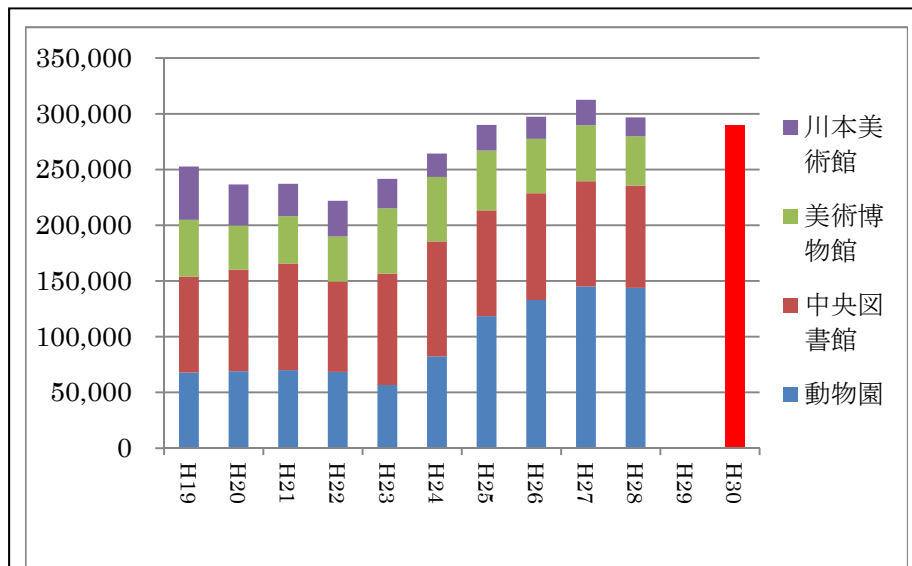
事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データベース機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	銀座堀端ビルで提供する健康福祉サービスの平成 28 年度の年間利用者は 5,017 人であり、年々増加傾向にある。引き続きサービスの機能強化を図り目標達成に向けて取り組む。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後も事業の詳細を検討しながら、より多くの賑わいをつくっていききたい。

●調査結果の推移（地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造）

「文化・交流施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P106～P108 参照



年	(単位：人／年)
H24	264,000 (基準年値)
H26	297,341
H27	312,507
H28	296,832
H29	
H30	290,000 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：平成 29 年 4 月（平成 28 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：川本喜八郎人形美術館、飯田市美術博物館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 文化的・商業的イベント実施事業

（事業主体名：飯田市、飯田商工会議所、飯田やまびこマーチ実行委員会、

オーケストラと友に音楽祭実行委員会、獅子舞フェスティバル実行委員会、飯田丘のまちパル実行委員会）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	やまびこマーチ、オーケストラと友に音楽祭等の文化事業やイベントを継続的に実施するとともに、新しいまちなかイベントや文化事業などを創出、実施していく。
事業効果及び進捗状況	各館において定期的に魅力あるイベントの開催や共催を実施することで、年間入場（園）利用者数は、川本人形美術館 16,981 人、美術博物館 44,277 人、中央図書館 91,668 人、動物園 143,906 人となった。昨年度に引き続き、目標値を見込めるものとなっている。

②. 美術博物館改修事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【予定】
事業概要	美術博物館常設展示室の全面改修と展示物更新について検討・実施する。
事業効果及び進捗状況	常設展示室の改修事業を平成 30 年度から予定されていることから、年間来場者数の増加における目標達成には至っていない。

③. 地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、地域全体をミュージアムと捉え、知的交流拠点となるまちなかの創出、回遊性を向上させるソフト事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	美術博物館のプラネタリウムにおいて地域の自然、文化、歴史などを題材にしたオリジナルの番組を 17 番組制作し上映している。1 日平均来場者数は 48.3 人と目標値には達していないが、今後は、平成 30 年度に計画される施設改修事業を始め、人の流れを生み出している動物園との連携事業を計画することで目標達成に向けて努力をしていく。

④. 扇町公園（動物園）活用事業（事業主体名：環境文化教育機構（株））

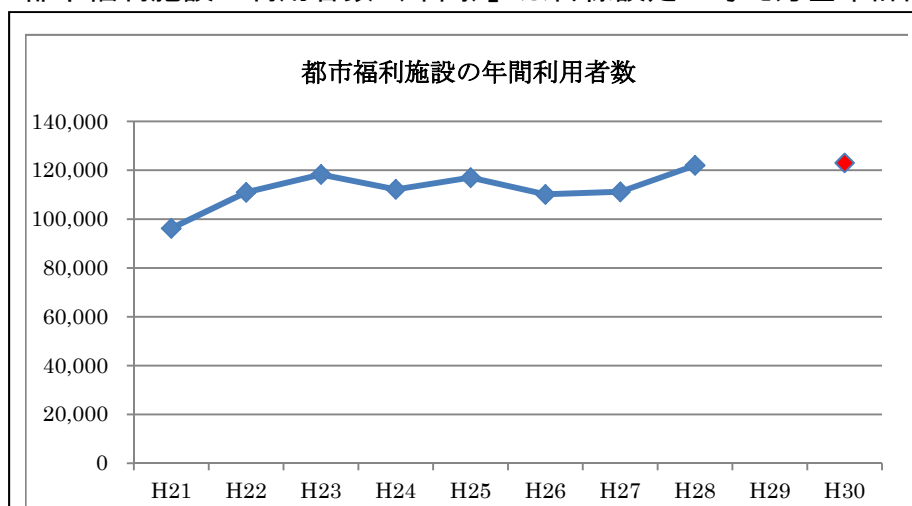
事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	再整備された動物園を活用しながら、様々な体験教室、講座を実施したり、公園全体を使ったイベントの実施や、他の文化施設、商業施設等と連携した事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	常時開催される体験イベントを始め、月 2 回程度の特別イベントを開催することで入園者数 143,906 人/年を確保している。また、まちなかの拠点施設を繋げる電気小型バス運行事業と併せて、動物園を起点とする まちなか回遊を生み出す基盤ができつつあり、目標達成を見込めるものとなっている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に推移しており、一部の文化施設で来場者の減はあるものの、事業内容を工夫しながら進めてきたことにより、平成 28 年度は改善することができた。今後も事業内容を工夫しつつ、中心市街地への外来者増を図っていく。

●調査結果の推移（環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現）

「都市福利施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P109～P111 参照



年	(単位：人/日)
H 24	112,000 (基準年値)
H 26	110,107
H 27	111,181
H 28	122,029
H 29	
H 30	123,000 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：平成 29 年 4 月（平成 28 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市公民館、りんご庁舎、カーブス、(株)なみき

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：（株）なみき）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	銀座堀端ビルで提供する健康福祉サービスの平成 28 年度の年間利用者は 5,017 人であり、年々増加傾向にある。引き続きサービスの機能強化を図り目標達成に向けて取り組む。

### ②. 環境配慮型まちづくり事業（事業主体名：飯田市、おひさま進歩エネルギー（株））

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	りんご並木のエコハウスなどを活用し、環境に配慮した豊かな住まい方を提案したり、低炭素社会実現のためのまちづくりを学んだりする場を提供する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度の訪問者数は 6,866 人/年と、環境に関心を持つ市民等が継続して訪れている。引き続き、低炭素社会実現のまちづくりを学ぶ場として、施設の活用を図り、目標達成に向けて取り組む。

### ③. まちなか住宅開発事業

（事業主体名：社会医療法人 栗山会、おひさま進歩エネルギー（株））

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	暮らしやすいまちを創造するため、これまでのまちなかの居住の成果を継承しつつ、環境に配慮し、且つ人の暮らしに合った効率のよい集合住宅等の開発を研究・実施する。
事業効果及び進捗状況	酒造跡地を活用したサービス付き高齢者住宅の整備を進めており、平成 29 年度は 38 戸の集合住宅が供給される。この施設には、訪問診療、訪問介護・看護ステーション、通所リハビリ、メディカルフィットネス等の都市福祉施設も併設されることから、相当数の利用が見込まれる。また、この施設には、売電収入を地域に還元する仕組みを導入した太陽光発電施設を設置している。

### ④. 旧飯田測候所活用事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	歴史的建築物としての外観を復元しつつ、旧飯田測候所の歴史、飯田市の環境施策の情報発信及び集会室等の設置によるコミュニティ活動の拠点化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度の環境学習セミナー33 件、参加者 592 人/年。地元の施設利用 21 件、利用者 1,123 人/年と、施設は地域コミュニティ活動の場として、目標達成に向けて順調に参加人数を伸ばしている。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に推移しており、目標達成は可能だと考える。福利施設の年間利用者数は一部において前年対比で減っている施設もあるが、総体では増加傾向である。今後もさらに民間活力を大いに活かしながら、それぞれの事業を精査しつつ進めていき、目標達成に寄与していきたい。



## 平成 28 年度の取組等に対する

### 中心市街地活性化協議会の意見

- ・ リニア中央新幹線の長野県駅が郊外に設置される当地域では、リニア駅周辺は広域交通拠点としての限定的な機能を整備することとしており、中心市街地は引き続き当地域の中心拠点であり続けることが確認されている。
- ・ 中心市街地活性化基本計画は、来るべきリニア時代に向けて中心市街地の魅力を高め、ひいては飯田市及び南信州圏域全体のポテンシャルを高めるためにも重要な計画といえる。
- ・ 平成 28 年度は第 2 期計画の 3 年目となり、様々な事業に着手し目標値を達成する項目もあるなど順調に進行していると言える。
- ・ 特に、飯田市民の心のシンボルでもある「りんご並木」については、ソフト・ハードとも充実した取組を行っており、賑わいの創出に貢献している。
- ・ ただし、歩行者天国などのイベントでは大きな集客があるが、日常における中心市街地への来訪者や歩行者がまだまだ少ない状況である。
- ・ この対策として初めて実施した「丘のまちバル」は、一定の成果が得られ賑わいづくりに有効な事業であることが確認できた。
- ・ このため、バル事業の更なる充実を図るとともに、引き続き誘客性、回遊性を高める取組に努められたい。
- ・ 第 2 期計画は平成 30 年度で終了であるが、JR 飯田駅周辺の再整備や市街地再開発の検討の動きなど重要な課題があることから、31 年度以降も中心市街地活性化基本計画による総合的、計画的な取組みが必要であり、平成 29 年度からは、多くの主体が参加を得ながら第 3 期計画の検討を進められたい。
- ・ 飯田市の総合計画である「いいだ未来デザイン 2028」のキャッチフレーズである「リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～」の実現のために、小さな世界都市の顔ともいえる中心市街地のあり方について、リニア時代を見据えて、その機能・役割分担、都市デザインなどについて積極的な検討を進められたい。